

今月の推薦句

山田真砂年選

冬の蝶野に断層と言ふ軋み	沼田布美
海荒れの舟屋の魚籠に青蜜柑	上田信隆
コミュニティバス折り返しまた冬ざれに	滝代文平
代り映えなき日好日小春かな	牧園 賀
枯葉踏む音を光に溶かしつつ	小見戸 実
日蓮に法難木守柿真つ赤	大坪正美
冬たんぽぽ体育見学する少女	本多遊子
冬木立青きテープは伐らるる木	西中悦子
二時間に一本のバス冬紅葉	國益悦子
風の音の真中に立ちて大根引く	中村かりん
熟柿吸ふ口の淫らを肯へり	槍田良枝
日めくりを剥ぐたび傾ぐ十二月	司 まや
桑括るをんなの歴史見ゆる町	植松深雪
忙日の冬陽に凝らす針の穴	池田美和
天竜川の霧に育ちて霧に老ゆ	丸山時子
小春日の全員転ける縄電車	矢代保子
蓮枯れて水の日向となりにけり	岡本秀子
七五三芭蕉の句碑を誰も見ず	飛田小馬々
太々と葱は甘さを増しにけり	大和田美和子
目貼しつかりしんしんと会津の夜	瀧本 萌
八海山や里の祠の冬構へ	高田 峰
アイライン太めマスクの人となる	中村かりん
アイライン青く濃くひきマスクの娘	青木陽子
孫が問ふ形の不思議いてふの黄	堀 潤子
コロナ去れ師走の曆強く剝ぐ	鎌倉秋廣
綿虫とビル見上げるや浜離宮	内海山鹿